

第8章 地域公共交通網形成計画の基本的方針

1. 基本的な方針

日南市重点戦略プラン「創客創人」(計画期間 2015 年～2019 年)では「どこよりも誇れるまちへ」を将来像に掲げ、総合的かつ計画的なまちづくりの展開を進めている。また、日南市都市計画マスタープラン(目標年度 2033 年)では「笑顔はじける まち 日南」市民自らが日南を支えていると実感し、人が集い、誰もが笑顔で暮らせるまちを将来像に挙げている。そして、公共交通の基本方針として「公共交通の連携強化」を図るため拠点分散・ネットワーク型構造を形成する上で、市民ニーズに対応したダイヤや路線などの公共交通機関相互の連携を図り、高齢者等の交通弱者対策を考慮し、市民が安心して移動できる公共輸送サービスの確保を目指している。

これらを踏まえ、本市の地域公共交通体系については、路線バスを公共交通体系の軸として、コミュニティバスやデマンド交通等の交通機関を相互に連携し、市民の生活行動に対応した公共交通ネットワークを形成することで「誰もが使いこなすことができる持続可能な公共交通」の形成を目指す。

そして、将来的にも公共交通が維持されるため、市民・行政・交通事業者がそれぞれの立場を尊重しつつ、利用者の視点から公共交通ネットワーク形成に向けた三位一体の取り組みを実施する中で、市民生活に必要な公共交通を皆で育んでいく。

計画の基本方針

誰もが使いこなすことができる持続可能な公共交通を目指す

基本方針 : 市民生活に対応した公共交通体系とする

- 市民生活を行う上で各公共交通がわかりやすいルートや運行時刻に設定することで、利用者が各公共交通に合わせた市民生活をおくれるような環境を創出する。
- 高齢者による自動車交通からの転換(免許返納や高齢化)に対応する公共交通にすることで、健康で安心できる生活を目指す。

基本方針 : 市民生活における自動車利用社会からの脱却や交通弱者へ対応した公共交通体系とする

- 各公共交通がわかりやすいルートや運行時刻(循環路線バスルート)にするとともに、自由に公共交通で移動するため運行形態を目的別運行など市民生活が過ごしやすい環境を創出する。
- 移動手段がすべて自動車利用に依存している生活の中から、日常で基本となる通勤通学の移動手段の一部や交通空白地での移動手段を転換させることで適切な公共交通環境を創出する。

基本方針 : 公共交通に係るさまざまな情報がわかりやすく市民に提供できる公共交通体系とする

- 多大な情報があふれている生活の中で公共交通を利用する市民に対して適切に必要なとする内容の情報を提供することで、利用する市民の公共交通に対する意識の醸成を促し利用増加が図られるシステムを構築する。

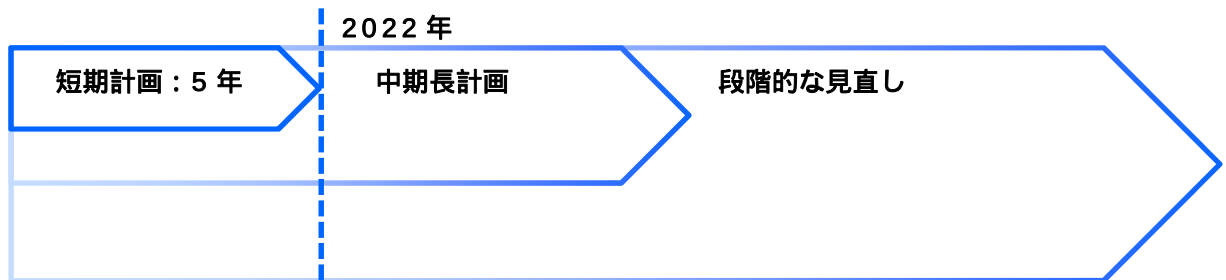
2. 計画の区域と計画期間

【計画の区域】

本計画は、日南市の全域を計画区域として策定する。

【計画の期間】

計画期間は、西暦 2022 年までの短期計画と、西暦 2022 年以降に渡る中長期計画とし、5 年を基本とし見直しを実施する。短期計画においても、市民ニーズや路線運行維持が困難な場合はについては協議を行い、随時改定を実施する。



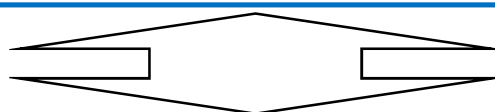
短期計画：市民ニーズを踏まえてコミュニティバスやデマンド交通の内容の再編を行う。

中長期計画：民間路線バス等との連携の中で利便性の高い公共交通体系を構築する。今後の高齢化社会への対応を含めて構築を図る。

3. 計画とターゲット及び機能分類



日南市都市計画マスタープラン



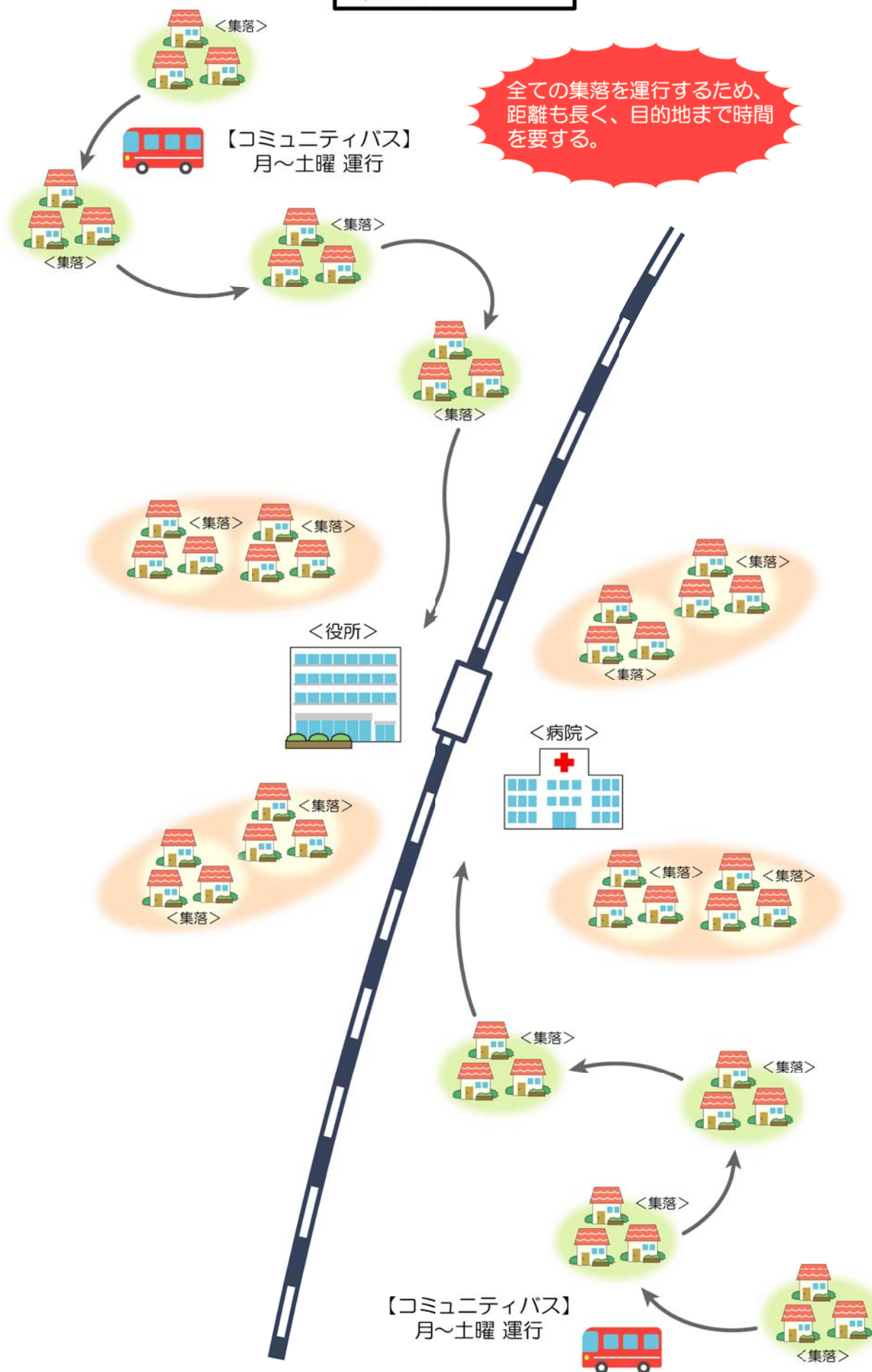
【公共交通の機能分類とサービス水準の設定】

本市及び周辺市町村においては、JR 日南線が市内及び市内外交通に対処する都市軸としての機能を果たしている。本市には伊比井駅から榎原駅までの 10 駅が存在し、鉄道が市民の日常生活の移動手段として機能している。また、路線バスは飫肥地区から宮崎空港・宮崎駅方面までの宮崎線や飫肥地区から幸島方面までの市木線、油津地区からさくらアリーナ方面までの北郷線、油津駅前待合所から東郷支所方面までの東郷支所線など、鉄道や路線バスを公共交通軸とする地域公共交通ネットワークの形成を行う。

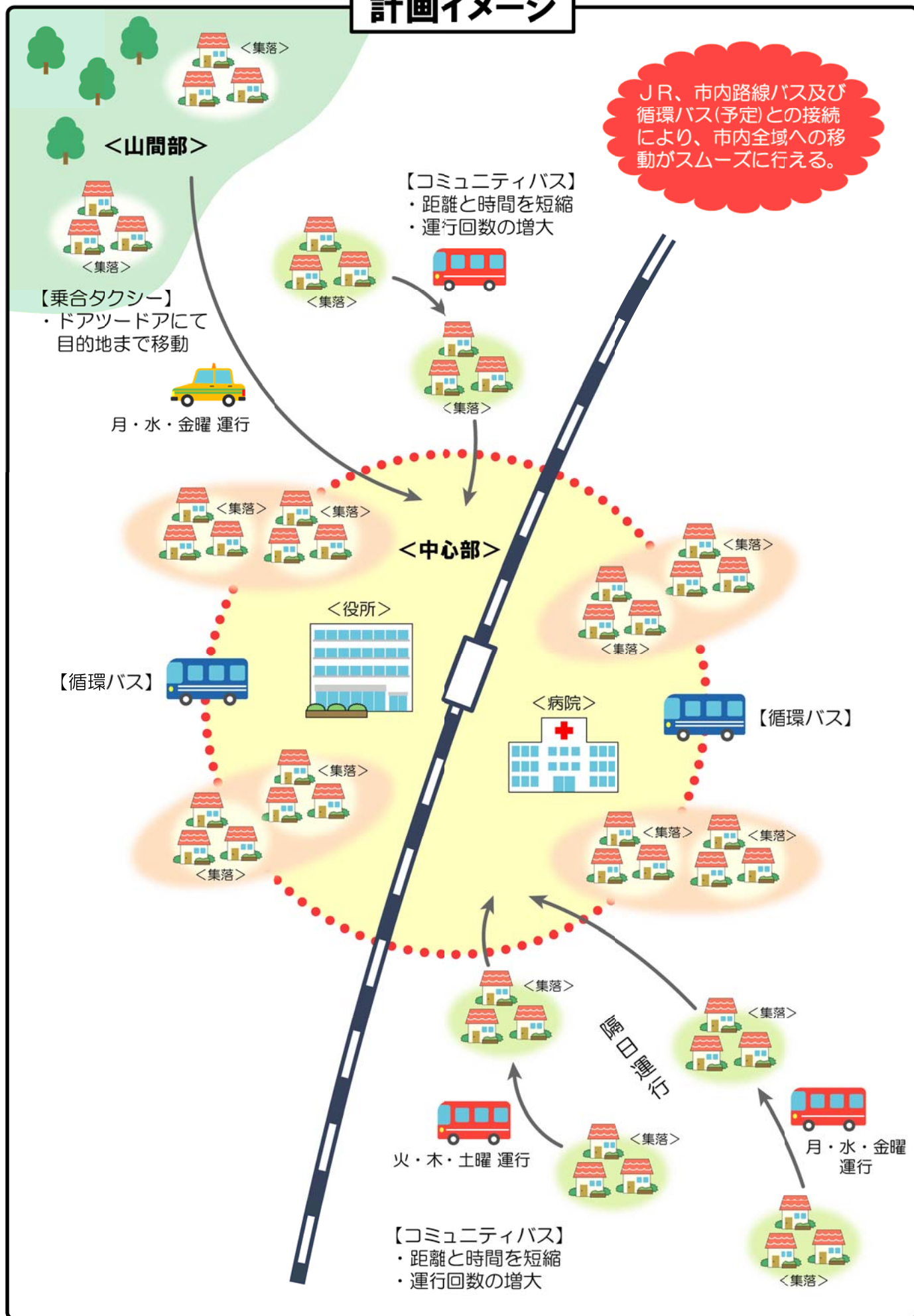
一方、コミュニティバスは、これらの公共交通軸や、商業施設、医療施設、公共施設等の地域の生活拠点施設へアクセスするための生活交通として位置づけ、鉄道、路線バス、コミュニティバス及びタクシーが一体となって機能する地域公共交通体系の構築を目指す。

なお、本計画で位置づける地域公共交通は、乗合輸送を前提とした公共交通であるが、公共交通を利用できない要介護者、身体障がい者等の交通弱者については、日常生活及び社会生活を営む上で、安全、円滑、快適に移動することができるよう、行政として他の個別計画と連動する中で、合理的配慮に基づいた運用や交通施設（車両、駅、バス停、案内表示、道路施設等）の整備及びその他必要な措置を行う。

現状イメージ



計画イメージ



■ 地域公共交通の機能分類とサービス確保の考え方 ■

機能分類		路線機能	サービス確保の考え方	運行主体	該当する 現行路線
公共交通軸	鉄道	通勤・通学や買物、通院等、様々な利用目的に対処し、本市と周辺市町を連絡する都市間交通軸として機能する。	・都市間を連絡する交通需要に応じた、高いサービス水準を確保する。	JR 九州	JR 日南線
	広域幹線バス	通勤・通学や買物、通院等、様々な利用目的に対処し、鉄道と一体となって日南市の公共交通の骨格を形成する。	・鉄道等と一体となった公共交通軸を形成するとともに、潜在需要の喚起を図るため高いサービス水準を確保する。 ・さらなる広域交通や地域幹線バスへのアクセス路線であることから移動時間における乗客集中に対応できる車両、システムの導入を図る。	宮崎交通バス	宮崎線 市木線 北郷線
	地域幹線バス	鉄道駅アクセス需要に対処し、広域幹線バスと一体となり、地域の軸線として機能する。	・通勤・通学及び帰宅時間帯でのサービス水準を確保する。 ・鉄道や幹線バスとの乗継利便性の確保に留意したダイヤを設定する。	宮崎交通バス	市内線
地域交流交通		住宅地と、公共交通軸（鉄道、幹線バス）や地域の生活拠点（商業施設、医療施設、公共施設等）を結ぶ機能を有する。	・住宅地と公共交通軸（鉄道、幹線バス）を結ぶルートとする。 ・住宅地と、地域の生活拠点（商業施設、医療施設、公共施設等）へのアクセス利便性の確保に留意したルート及びダイヤを設定する。 ・幹線バスとの競合の回避に留意したルート及びダイヤを設定する。 ・幹線バス及び周辺市町のバス路線との乗継利便性の確保に留意したダイヤを設定する。 ・地域ごと、曜日ごと等の利用特性に応じて適切なサービス水準を維持する。	日南市 コミュニティバス	細田・隈谷線 酒谷・吉野方線 大戸野線 広河原・猪八重線 大牟礼・ 中部病院線 札之尾・ 中部病院線
個別輸送 (デマンド交通)		個別輸送手段は、幹線バスや地域交流交通と空間的及び時間的な補完関係を構築する。	・タクシーは、駅や集客施設を発着地とした移動ニーズに対応するとともに、個別の移動ニーズに柔軟に対応できるサービス水準を確保する。	タクシー協会	富士河内及び 伊比井河内地域